

# 第3期（前期）「にいがた福祉リーダー塾」開講

主催：新潟県労働者福祉協議会 共催：新潟ろうきん福祉財団

2013年度からはじまった「にいがた福祉リーダー塾」も、今年で3年目を迎えます。この取り組みは、これまで中央労福協、労働者福祉東部ブロック協議会が実施してきた福祉リーダー塾を新潟県内で、より多くの方から参加できるようにと、新潟労福協が地域版として、全国の地域労福協に先駆けて実施しています。地域の多様な組織と連携し、勤労者の福祉向上を目指した広域な活動の展開が期待されている昨今。1期生、2期生に続き、3期生も学びと気づきを得て、労働者自主福祉運動を創造していくことでしょう。

## 第一講義

協同組合に関する法律がなくても存在していた江戸時代の相互扶助のしくみから、現在の協同組合に突き付けられている課題までを高橋氏より具体例をもとに説明いただきました。



## ディスカッション

新たな試みとして、初日にもグループディスカッションを取り入れたところ、塾生同士よいつながりが生まれました。



## 第二講義

田村氏は「コミュニティの再生」にはグローバルとローカルのそれぞれの視点が大切であり、発想の転換による新しいライフスタイルとして「ホリスティック・ライフ（総合的な生活）」を提唱されました。



## 交流会

機械的にふりわけたグループだったため、ジェンダーバランスを欠いてしまい、男性のみの班がありました。最も盛り上がっていたのは、気のせいでしょうか（笑）



## 第三講義

主催者である新潟労福協の様々な運動の概要を山田氏より説明いただきました。その後、ワーカーズコープの小椋氏より市民参加と連帯による社会運動の事例として、フードバンク活動の成り立ちや現状を説明いただきました。



## 第四講義

交流会から参加いただいた高木氏は、「すでにみなさん連帯・協同を実践されている」と感想を述べながら、コーディネーターは、単に存在するものを結合するだけでなく、そこに新しい提案を加えていくことだと説いていました。



## 第五講義

「非営利」「公益」「ボランティア」知っているようでまだ馴染みの薄い言葉を金子氏より解説いただき、組合も広義な意味でNPOなのだと理解しました。



## プログラム／講師

■7月3日（金）

### 第一講義

「歴史から学ぶ労働者自主運動の理念とこれからの役割」／高橋 均氏（中央労福協アドバイザー）

### 第二講義

「日本社会と協同組織事業に期待するところ～危機の時代の物の見方・考え方と“惜福の経済”」／田村 正勝氏（早稲田大学名誉教授）

### 第三講義

①新潟県労福協の運動／山田太郎（新潟県労福協専務理事）

②ワーカーズコープとフードバンク活動／小椋真一氏（ワーカーズコープ北陸信越事業本部事務局長）

ディスカッション

「講座を受講して」意見交換／山田太郎（新潟県労福協専務理事）

■7月4日（土）

### 第四講義

「連帯経済の担い手としての協同組合～その中の労働組合・労福協の役割と運動」／高木都郎氏（日本女子大学名誉教授）

### 第五講義

「県内のNPO活動の現状と労福協との連携」／金子洋二氏（新潟NPO協会代表理事）

【編集後記】NPO協会から7月1日に出向して、最初の仕事が「にいがた福祉リーダー塾」でした。まさにテーマは、労働団体とNPOとの連携。学びと気づきの深い二日間に、脳みそがパンパンに（汗）。後期は、グループワークが多くなるそうです。また、心地よい疲労感を共に味わいましょう！（富）

後期予定

2015年10月3日～4日  
新潟市内